

「出題の意図」

選抜区分	2025年度（選抜区分：総合型選抜 1次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、地域の方々等と協働して主体的に課題解決に取り組むことができる学生を求めている。</p> <p>1次選考の集団討論では、求められた課題を的確に理解し、それに対する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、課題のとりまとめに協働して貢献することができるか等について、受験生一人ひとりの力を評価した。</p> <p>2025年度総合型選抜1次選考における集団討論では、試験当日に同一の課題を示した。今回は、「提示された3種類の地域課題の中からグループで1つを選択したうえで、別途提示された9種類の要素の中から3つ以上を組み合わせた地域課題解決策を話し合い、画用紙3枚以内にまとめて簡潔に発表する」ことを求めた。</p> <p>評価のポイントとしては、お互い（同じグループの受験生同士）を大切にしながら、相手の意見をよく聴き、自分の意見、考えをわかりやすく表現しているか、といったコミュニケーションの状況等に着目した。多岐にわたる論点が存在する課題に関する自らの考えを、他者との意見交換を通じて深めつつ、議論のとりまとめに協働して貢献することができるか、という点を重要な評価基準とした。</p>

「出題の意図」

選抜区分	2025年度（選抜区分：総合型選抜 2次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：小論文・個別面接）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感度が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、地域の方々等と協働して主体的に課題解決に取り組むことができる学生を求めている。</p> <p>2次選考の小論文では、社会課題に関する文章を読みそれを論理的にまとめる思考力を身につけているかを確認した。また、個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。</p> <p>■小論文について</p> <p>今回の小論文試験の出題文は、地域創生に関連すると考えられる文章の中から、次の2点を念頭に置きながら選定した。1点目は、地域創生においては地域社会が直面する課題を的確にとらえる力が必要であると考えことから、課題の構造を読み解くことに関連するような文章であること、2点目は、比較的平易な文章であることである。以上の2点を鑑み、今回は宮口幸治（2021）『どうしても頑張れない人たち ケーキの切れない非行少年たち2』新潮新書、の該当箇所を出題文として選定した。</p> <p>設問は「以下の文章を読み、『頑張る』ことと『支援する』ことの関係性についての筆者の主張を400字以内でまとめなさい。」とし、問題文に書かれている内容をまとめる作業を志願者に求めた。社会において頑張れない人たちの存在にしっかりと向き合っていく必要性等を指摘している文章の内容を理解して、論点を的確かつ論理的にまとめることができる答案を高評価とした。</p> <p>■個別面接について</p> <p>地域創生への強い関心および地域創生学群で学ぶ強い意欲を有しているか、これまで主体的に活動してきたことやそこから得た学びをわかりやすく説明できるか等を重要な評価基準とした。また、面接官との質疑応答において、質問の意図を理解した上で自らの考えを適切に表現できているか評価した。</p>